

**旧庁舎跡地内にある
英霊塔について**



松崎 誠

問 現在、旧庁舎跡地は福祉の拠点として整備計画が進められていて同地内には当市出身の戦没者の英霊塔があります。昭和45年に建立され老朽化も進み福祉の拠点整備に合わせて他の場所に英霊塔の移設を遺族会に提案されてはどうかと考えていますが考えをお聞きます。

答 現在、英霊塔の老朽化も進んでおり、遺族会として維持管理の部分と経費の負担も含め心配されていると認識しています。現在、移設も含め検討中で協議を進めています。

◆安全安心のまちづくりについて

問 河川防災ステーションは、令和9年3月末の完成に向け整備が進められ上部利用部分が縮小されたのか、また、水害時、水防センターへの避難ができるのかをお聞きます。

答 市では中央部道路の北側のみの上部利用を考えています。以前の計画だと、管理のうえで経費が大きく掛かってくると、地域の方からも広く利用する考えは無いと言われ規模を縮小し、また、水害時に避難できる場所が欲しいと強い意向もあり、避難所指定は難しいが避難できるスペースは必要と考えています。

平和事業の更なる充実を



雪田 きよみ

問 三郷市では教育委員会が東京大空襲を描いたアニメ映画などを所有し、学童等に貸し出している。市教育委員会の取り組みは。また、市立図書館所管の平和関連DVDについて、社会教育活動支援のため、上映権付DVDの市民団体への貸し出しを検討していただきたい。市の考えは。

答 教育委員会でのDVDの所有については把握していない。あれば貸し出すことに反対しない。図書館のDVDについては、他市の事例を参考にしながら検討する。

問 今年8月の市の「平和のつどい」での講演講師は40代の方だった。「戦争の第三世代として更に若い世代に戦争の悲惨さなどを伝えていくのが自分たちの役割であり、教育こそ本当に重要」と熱く語られた。その言葉にどのように答えていくのか、市の考えは。

答 人のいのちと人権を脇に置いた教育はないと校長・教頭・教員に話をしている。平和・いのちの教育をしていくことが重要。社会教育については図書や様々な教材について確認しつつ、予算を認識した上で貸出し等ができる状況になった場合には推し進めることも考えていく。

地域における「こども誰でも通園制度」の制度拡充等を求める意見書

今定例会には、4件の意見書が提出され、次の3件を可決、内閣総理大臣等へ送付しました。

意見書

議員提出議案

意見書は、地方自治法第99条に基づき、市の公益に関することについて、国会や関係行政庁に対し、議会の意見をまとめて提出する文書のことです。

「こども誰でも通園制度」は、全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に向けて支援を強化するため、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付制度である。地域の提供体制の状況も見

気象防災アドバイザーの活用について



中嶋 通治

問 自然災害が激甚化・頻発化している中、国や自治体の災害対応力をどのように高めるかが課題である。いつ起こるか分からない気象災害について、高度な知識を持つ気象アドバイザーの活用が必要と思うが見解は。

答 災害時における専門的知見について、災害対策本部会議で直接助言を頂ける点においては、有効であると考え。しかし、一人のアドバイザーが情報を24時間監視するのは難しい。突発的な大雨に対応するには、引き続き現状の民間会社による助言と、避難情報発令の判断等の対応を行う活用については県内でも事例が有るので、今後、情報収集に努める。

問 気象アドバイザーを講師とした研修会の開催を考えるのか。

答 当市では、災害対策について、職員研修会や自主防災組織の方を対象とした研修会、更には市民の方を対象とした講演会を実施している。今年度、小中学校の教職員向けの減災研修会に気象情報官を招き開催する。研修会に気象アドバイザーを招くことについて他自治体の事例を調査、検討する。